



開卷敬驚奇俠客傳第四集卷之五

東都曲亭主人編次

第三十九回 女俠死猿と購ふ駿馬骨を擬ふ
心猿發狂一々大奸黨を懲艾を

却説楠姑麻婆姫。名ひなけり。叔父正直。那嵐山持永。婚姻の義と談下れ。呆うま。腹立。色あ
空だ。草で嘆息し。答へる。這身所因と云ふ。脚心つかひ。示さぬ。喜の趣理。似て情れ。婚縁
ゆへも素らう。情願す。稍東西と知る。外伯母尼前。日暮。御徒弟小女と宣り。聊思ふ。一
生不形改ぬ。年來。屬精進。心へ出家。畢竟。空も亦脱れ。天縁を身へ人妻ある。あつも。
世本壻が。も。眞かえ。楠氏一家の怨敵。那公の子の妻。一も。あれと薦め。諭。嬉。世本
時と勢ひ附て。榮利よ走。怨と愧恥。知。み。賢と思。通の人の情。道を守り。乱
離の人ふ。よど。念する忠孝節義。誠と心と做。もの。那榮利と權勢を。動き。工夫。日今。諭

遠く坐車の正直を。楫へ先立て、玄関の式臺室を送りける。傍りに姑麻姫が、敢物とも思ひ、
垣衣が、其の件の一議となり。知るところなく、垣衣は、次の間あゆて、腰等はれ、胸安らぐ。思ひ難て、安次あ
ちぐかああきさや。ふるえみるよ。こへな。体と那崖略と其き告て、姫が御心強を。死答易烈か。叔父君の箇様々々か。嘆たまひ一詞の未だよ
かを傳うべくおせま。うち譚を。安次等の眉と頬卑め。おろす姫上の何も宣ふことなし。諫言されん便りの
あすト聰明睿智ふ。佛生甚が怒ふ衆と語と過む。匹夫と同トかくもあらず。然ば諫言させよ。みづく御
御深慮ある。言事出そ。秘め色ねと諭。垣衣點頭で誠然と忘て。不安と胸よりと措
く。禪主思ひ。悄々地か禱る神の加護佛の利益。旦暮か。寝下某生再説。楠式部少輔
正直八九の莊院と退り。折宿所へ立もかへ。躰下赤陥る。陣館へ赴かれ。持永紗や出迎て。閑室を
請う。晉侍日屬ふ。弥増せし。正直辞を。席ふ着ふ。持永も對し。在下方廻途中より。持病の心
積猛不發り。堪え。口と。宣を。あすと。勉て推參は。及願大。左右を遠き。とく持永も
き。坐。呼て。そひ安ち。反す。そひ。葉を。も。心地へり。かどり。と。問ハ。正直頭を掉て。不自然。する。身も。あ
く。

持病負れ程も。き。瘡る。ざくらへ。久く席ふ堪れ。と。四下せ。不。其頭ふ人のみ。う。忽
地ふ聲と。悄々。豫見。憑の。一。美。あ。け。八九の莊院へ。卦を。か。ま。と。不持永遠く。膝を。找。満面春色
食。ひ。ひ。あ。姫。敢。従。是。时。伯母智正尼。徒弟ふ。き。ひ。身。う。と。猶佛縁の。孰せ。あ。けん。いき。形を。改。ね。年中勇
氣。あ。き。あ。ん。在下短才。訥辭。れ。も。和君の。與。ふ。言。惜。ま。を。姫。せ。説。く。利害。と。そ。ま。く。婚姻。と。薦。め。か。姑。磨
姫。敢。従。是。时。伯母智正尼。徒弟ふ。き。ひ。身。う。と。猶佛縁の。孰せ。あ。けん。いき。形を。改。ね。年中勇
氣。あ。き。あ。ん。猛精進。と。心。出家。ふ。異。を。取。ま。と。男。子。自。見。あ。が。を。望。云。と。薦。め。か。姑。磨
塞金。と。と。面。色。の。凄。く。當。る。う。の。是。信。れ。が。幾。番。薦。ま。と。在。下。を。ど。能。ふ。無。る。危。せ。す。と。あ。ま。争
何。女。救。正。が。た。物。い。と。既。か。相。定。め。ひ。が。腹。辛。ま。罵。そ。那。黒。毛。退。の。能。と。ど。持。永。は。全。眼。中。忽。地。火。を
牛。と。正。直。と。化。と。疾。視。て。の。う。左。右。を。り。坐。す。身。を。坐。か。い。面。と。和。ば。ち。領。て。原。來。姪。女。せ。裏。果。敢
至。て。出。家。の。情。願。ひ。ひ。欲。を。あ。る。実。あ。ん。や。這。嫋。談。と。美。い。ま。く。と。以。あ。う。け。叔。父。公。の。老。の。始。で。き。う
整。ひ。が。た。婚。姻。を。余。人。を。憑。ひ。ぐ。も。あ。と。先。具。氣。脱。と。便。宜。も。あ。ふ。商。談。敵。ふ。馬。鹿。す。い。ま。う。う。う。
う。

夙望成就せども今番半老の御親切。胆が銘ぐるを最辱くひ。師の才美あら正直初で心
おちて感ること大なるを。稍笠果る頭を抬げ。通愛の寛仁大度。一朝の怒を傷う。一婦人與小
敢惑の毛世は太丈夫さんめの誰も懲りをも。生ほれ事整事と拵へとぞ。怨恨をあん歎と爲ひ難く來る
折悪。女心のまづらふ脚一言を胸隔開け。持病も過半瘳る。痊可後推参して復て弁謁仕えを
よき。のひまく。スビ。春まく。さうど。ちゆ。まき。まき。みゆ。さて。ふう。まき。そとうら。あく
歎を舒告別と河備の宿所へ還り。行程お持次。正直を日送り果て猛可の泰勝媒鳥們を奥ま
な便室を召よ。那姑麻姫は才園で推辞。出家の情願あり。とのり。憎に脱路を。身の附身は注連を引る。用心
ら空を。姑麻姫は才園で推辞。出家の情願あり。とのり。憎に脱路を。身の附身は注連を引る。用心
至る。遅れ我ある機を猜せ。故意怒を見ひ。箇様々正直より八九へ响き。その後謀與を
却ひ。ふとよし。汝達各智囊と揮ふ。十分以て躊躇する。鬪買せ。名をよかとられて速く答難。沈
吟する。中少泰勝莞尔と立ち笑て。仰寔は無理。とも思案。まよ。愁ふ。冰人を。術を誇り。や
かが。還て莫の障り出来て。首尾好ぬ。差跨。物のよか故ふ。然べ詩も語も要ひ。那美金外の

お。うら。たせ。お。折。覗。見。勢。と。捕。網。と。搔。攬。と。輒。既。入。不。及。び。他。死。極。従。至。或。
浮。酒。を。そ。或。慰。小。艶。語。徐。蕩。女。子。原。是。水。性。漸。心。動。往。佳。境。ふ。入。
あ。ひ。在。下。舊。里。ふ。在。一。時。稻。城。女。児。信。夫。像。如。糸。奪。金。従。其。手。術。畫。せ。か。那。小。
六。奴。お。妨。せ。れ。本。意。を。済。遂。敗。れ。這。身。を。追。放。せ。れ。初。よ。幸。謀。計。拙。に。所。以。ひ。信。夫。が
す。け。え。帮助。お。れ。が。だ。と。女。媒。鳥。推。禁。女。を。も。り。立。て。あ。く。元。庸。の。女。子。そ。せ。捕。網。と。糸。奪。金。
あ。こ。ま。ち。ふ。け。な。き。と。る。ふ。る。女。子。の。原。は。水。性。を。漸。か。心。動。て。往。佳。境。ふ。入。
那。姑。麻。姫。武。藝。剽。姚。韻。繪。半。額。僕。僕。勇。婦。文。れ。加。京。幻。術。あ。う。え。非。除。三。勢。を。も。向。あ。い。ふ
て。い。ミ。ク。お。き。け。ふ。舟。方。と。駆。一。急。を。喰。て。瓶。を。求。ま。ん。を。知。ま。と。估。め。泰。勝。不。か。う。冷。笑。ひ。鈍。詞。腰。を。
お。世。評。小。馮。る。と。お。那。姑。麻。姫。號。の。幻。術。と。厭。勝。の。秘。符。を。も。憲。然。が。老。師。の。正。法。老。師。の。正。法。老。師。の。正。法。老。師。の。正。法。

名著存算印車卷五

卷三

卷五

今六星移り物換り。世事を知る者。價千金をとひま。死身の與此ぞう携來。茲在期不臨焉。
免一ト。公用。その神效。違ざるを知れん。と。又持永雀躍。老師の慈愛。萬謝も足ら。非除價貴
全。も。の。效あべ歎く。を。間諜者。快遣し。那允昇。院の動靜。毎覗。而。姑麿姫の外。考。少知る。と
乞。緊要。媒鳥が。賤兵。よ。支熟。者。あ。危欲。い。と。同。豪袁。推禁。そ。モ。も。半意。と。旁。め。之。
拙僧既。那。黒の。動靜。と。前。より。知。と。よ。と。明。姑麿姫。午牌時候。よ。轎子。ふ。うち。乗。そ。如意室。珠院。參
詣。年。の。尾。ふ。三親の墓。拜。と。あ。が。か。究。竟。の。折。れ。ど。那。黒の。若。黨。鶴屋安次。投石の技。精妙。あ。を
。こう。い。う。が。ち。く。ろ。て。る。よ。う。ち。そ。う。あ。こ。そ。う。う。う。て。き。く。等。す。し。そ。う。あ。そ。う。く。ふ。一。て。ぐ。れ。そ。う。あ
り。い。學。比。卒。槌。隆。光。が。夜。敵。の。折。後。門。よ。綱。入。方。隆。光。が。下。の。強。人。十。餘。名。を。數。ひ。付。た。る。を。煅。煉。の。後。生。多
よ。御。傳。譽。田。騏。九。郎。ふ。ゆ。る。と。も。ひ。明。早。安。次。が。併。不。立。そ。へ。躬。方。の。申。て。埋。伏。と。姑。麿。姫。の。轎。子。近。つ。折。付
。ま。う。ひ。と。ひ。ま。も。ち。あ。う。あ。の。ち。す。と。す。ま。う。ひ。ま。う。ひ。の。ち。あ。う。あ。の。ち。わ。ま。う。ひ。ま。う。ひ。の。ち。あ。う。あ。の。ち
ア。ウ。カ。ア。締。埋。伏。と。う。い。も。那。轎。子。よ。近。つ。と。神。速。不。わ。が。れ。我。秘。符。も。亦。姑。麿。姫。の。幻。術。と。折。伏。と。が。ま。の。裏。も。通
じ。と。と。昨。夜。遊。佐。殿。を。密。談。と。那。安。次。を。併。不。立。せ。謀。計。と。定。ゆ。る。そ。の。計。較。は。固。様。く。と。詞。頗。く。甚。に。示
せ。が。大。家。ひ。く。感。佩。て。老。師。の。軍。配。神。機。妙。算。一。言。主。の。神。と。結。組。ア。役。行。者。と。ま。く。も。され。加。る。と。も。ある。



佛密傳嗣四軒卷五

卷五

賣人。御所望す。永樂五年賜り。と。是も他們へ離れて。相
ね。两个の。共侶の頭を掉て。否。我們は。射て。捕る。猕猴。皮。箭傷の。然せ。價
直。みれ。も。手。毛棒。を。毬。殺せ。且。寒中の。大皮。氣。殺。も。性。ま。と。否。が。縁。見。ふ。よ。化。推禁を
あ。つ。が。矣。と。遠く。路の。傍。卸。を。る。轎子の。頭。裏。箇。様。多。と。報。る。姑。麿。姫。是。苦。集。菩。提。の。與。賣
物。價。論。秀。と。快。々。せ。よ。ど。そ。せ。が。他。の。屋。店。腰。不。帶。る。袱。包。解。用。ひ。錢。五。百。羊。手。件。莊。客
们。ふ。遞。与。其。一。人。受。取。て。卒。毛。猕。猴。と。不。好。送。と。俱。別。如。田。夫。野。の。太。納。魚。錢。の。尋。も。賣。面。貞。口。言。ゆ
見る。聞。猿。の。體。不。揃。る。藤。の。端。獨。毛。條。引。搗。り。轎子の。頭。ふ。來。よ。近。ま。い。毛。連。一。梅。香。哇。嗟。と
叫。べ。背。毛。躲。毛。美。家。嘻。々。と。笑。ひ。登。時。姑。麿。姫。亦。復。毛。他。を。嘲。と。每。て。而。も。猿。猴。毛。這。便。不。御。寺。の。狗。邁
か。る。兩。衣。籠。而。樹。立。東。西。立。方。其。古。體。毛。斂。り。而。迭。代。毛。持。ね。と。も。よ。も。他。の。あ。う。結果。て。却。某。介。毛。懷。う。と。よ。と
あ。め。て。つ。と。り。毛。わ。る。か。か。不。ど。く。テ。う。だ。ら。の。り。の。り。わ。が。を。幸。う。ろ。だ。ち。そ。ち。
示。し。う。も。傳。す。と。龍。牝。猴。毛。斂。り。往。り。一。程。毛。轎。夫。们。毛。轎。子。毛。拾。起。と。連。よ。路。次。毛。折。り。天。や。う。空。く。晴。
真。そ。日。影。煖。毛。う。れ。是。も。亦。姫。あ。毛。憲。悲。深。功。德。狹。情。語。參。毛。他們。後。れ。と。梅。香。毛。扶。せ。俱。走。

佛密傳第十四軸卷五

仮客傳第四轉卷五

酒のまみ妹ありてあく頬のうふ
代女俠老猿開赤坂別荘

恋をきえけり様かわらばく

玉座王當白弓



をより



ナキ勝

有像第十五



ウチモト

アマミ

又人傳第十四昇天

士

玉座王當白弓

第四十回 隠形の術豪袁長總と救ふ
豊の文泰秀奇二ト吉が

後漢書卷五

卷之三

卷之四

卷之三

人を帮助て身の拙をう瞞も勧解が持手ぢを度こく懇理ごんり。屡嘆息うたまひ。登時豪表ごうひょう又また那様なやう姉めい姑お麻ま姫ひの凡ふ前まへ毛げ拔ぬる形代かたちしろ。宅いぢを去はなぶと七步しちほあて。毛げ己おの申まこと地枝じしお六合ごう後ご必ひ姑お麻ま姫ひ。這里なまこあ來くわる福ふくも。一時ひととき敗ひれ。患か足あり。最さい終お後ご捷と全ぜん勝ぜいかつ。今番こはん限かぎらん。慰ましられ。持水じすい憶おも苦笑くわうひよ。多おく先師せんしの教きょうふ儘まへ。遠とお畜生ちくせいを埋うまま。それ媒めい鳥とり木木下した其その力士りきし們めん蹴け被は持も。庭にわ中なか。外ほか票ひき先さき泰たい勝かつ媒めい鳥とり。何なんと應こたへ死死。麻斯マス此こ引起おこ。力士りきし遞たま與よ。共とも侶きみ主おの後ご方ほう。從つ豪表ごうひょう持水じすい俱とも。庭にわを案あけ。公程こう荷は郎ろう。鄉き寧ねい泰たい勝かつ媒めい鳥とり。俱とも。姑お麻ま姫ひの轎子こし。衛えそか。事こと。新參しんさん。身み亦よ賤せん。かばれ。奥おく入いを許ゆされ。美うつく美うつくの次つぎの間ま。取と送はなされて獨ひとり坐すわ。夜よ。初はじ更ご。物もの暗くろ。者ものも。泰たい勝かつ媒めい鳥とりも。出でて來く。往むか。聲こゑ。立た譟うなづ。倘ま姑お麻ま姫ひ走はらせ。然しか無む所ところ以あ。縱よ免許めんきを。あ。那な里處。迷めぐ。首くび。捕つか。過くわ。鵺け。蚌は。腐く。也よ。尋思しんし。身み。起あ。不知し案あん内うち。間ま。每まい々々。偷う。熟じ。抄く。迷めぐ。其その頭かしら。外ほか。者もの。あれ。那な轎子こし。昇の居ま。坐すわ。席せき。到いた。四よ下げ。不ふ。能め。影かげ。あ。四よ隅すみ。植う。

あらざる。あれをみる。
たる燭臺。焼桔の甚長く。蒙瞼とて薄闇。燭淚礙て無水ひゆう。奥から黒と暗と定め。又轍す頭を下す。
燒捨の香の煙。脣馥郁と立ち升る。そが傷は一個の婦人。頭髪を酷く搔乱す。復俯ふ臥す。氣息絶果す。
のよひれ。荷二郎はく訝り。うちも置ねまつ有のを。援手と撫試る。肩温め。動脉あり。原来に死すけり。
呑活をも胸前。まう腕と鎧穿て。抱起。火光不就て。初てう顔を見る。是則別人。目屬屬もう不識。長邊
史あけひき。什麼とちる。且驚。且懼。且て。肚裏ゆゑゆう。身比十劍破の宿所。火計の奴。送も。獨捕られ
る。雪子。折哉。妹子へゆふ事。と思ひ。日もあらうが。我身も猿舍。繫繫。餘同へまづや。そ。
胸安らげ。過たる。今宵料。這處。環會。夢。乍。麼長總。何等の故。這陣。館。在。する。又是何等の
事。見る。髮も頭髪。櫻乱。トヨテ。獨。這事。あ。反。証。至。限。も。哀。向。知。ト。ア。久。快。喫活。其事。案。
ち。さ。う。上。ここ。こ。え。い。と。一。と。
脣を差寄て。喫を。左右多く。喫。審。聲。爲。立。參。人。知。れ。向。が。立。得。向。が。必。疑。れ。要。そ。あれ。尋。思。
矣。左肩の腋ふ。多。富。修煉の活を入れ。が。長總。忽地阿と呻。死。眼と。用。息。呴。吐。極。抱。姿。荷二郎。肩あ。重。氣。け。
ほぐ。と。見。る。目。送。秋。の。波。育。姑。具。恍惚。と。じ。ま。ぎ。の。と。べ。り。ま。す。故。ある。長總。暴。る。獄。候。自。勝。も。う。れ。

をも夜食一碗賜ら。火の氣もあらず金剛の次の面を安置す。坐凍り不得堪る。酒でも餉んと奉る。覺る。這
頭を漫不思量れ。絶て人氣のきりか。那轎子と臥草にて明月遊佐還り。身を甚麼を開く。偷覗
を疑ひ。丸身も亦姑麿姫と竊あひ。偷覗獨守の三事。とおせも果持水。面色忽地姿どく。身と戰
は聲高鳴ふ。嘆古長。白物奴。息の音住んと走り。蒐り。刀を抜き。柄ふみを截ると豪表喚禁め。走歩
身と肩立て。詞徐諫る。太きぬを震怒。理ふ似ね。微賤見と敵よと。參う。忍汚まと欲。大入氣
ク。且這荷二郎。就盛主より今番の加勢をさせ。縦を功あがむ。一旦懲り棄て。參う。謀のひる。就盛主の恨む
べ。又姑麿姫。笑れる。あら笑ふ。思ひ。と寛釋との理。泰勝も亦共信ふ。利害と舒て勸解。かど。持水を
憂く。怒と理。舊の處ふ立かり。豪袁ふうち對ひて。老師の誨ふ。あらば。饒を下せ。至癖者見ど。只就盛の面ふ顰て
這回へ。杖沙汰。及び。夜分り城の外の自由。今速ふ遊佐へ返し遣か。木方あるて奴隸。毎預け置
ね。天明て牛一頭を。送り。媒鳥。の轎子。力士。木方始ま。手。打撻て。燔葉。珠。返して。櫃。留む。世の常言ふ。似
たる。蓋。吐き。吐き。躰。奥ふ入り。而媒鳥。力士。空轎子を吊る。又外面の牛。泰勝。恭く豪



後客傳 卷五

卷三

卷之三

あは。ひまか。ふとさうよろこぬ。まうえ。かがゆき。まゆめ。こまく
儘せむ。脅す不諫れ。荷二郎欵額をうそ。舊縁もあたかく。然まじ不思召る。胆ふ銘どあざく。尙異日
御用もあら。何事あれ仰付られ。身と碎た骨を折るも。御恩不答をうんとも。泰勝も歎びて。考へる我す。而憲
かく。みつき。こふだら。いせ。こー。なをほのまうの。あこー。そばめ
置。免懲議あり。我親。伊勢の國司。北畠殿の權臣也。姉。國司の側室。氣も。我身犯せ罪あり。故鄉を追放せり。也。
あ故。箇様。と。縚城。古の頬未を。詞煩く耳示して。憐れ。我か兩個の仇也。一個。母子の怨恨。怕々不足らど。も
ああ。わざん。ごとのこう。よぶる。ち。ぶげ。す。ころり。こる。ぎ
那信夫。義兄。達小六。と喚做。奴。武藝不捷れ。後生。和主。あ。義。あ。爲て。我が外を打。母子。よき。倫不
安。うらまゆ。また。どうく
防。が。後安。く思ひえ。又只。小六が。の。まう。ぐ。角。愚ひ。ま。れ。も。衆。じ。そ。と。異日。談。ま。ー。と。ふ。荷二郎。異議。も。く。仰
え。こう。こう。あ。ち。き
あ。う。ぬ。ひ。そ。の。尖。ま。く。後生。這地。來。ゆ。守。と。あ。そ。又。半。を。祈。も。あ。が。あ。小。集。知。い。も。の。間。撃。す。そ。身。の。與。ふ
參。う。れ。も。と。も
永。患。と。拂。ふ。か。伴。の。み。爲。ま。く。の。任。用。み。か。と。と。憑。く。諾。ひ。ふ。泰。勝。ゆ。之。缺。び。然。明。日。遊。侯。城。還。そ。折
ち。ひ。こ。これ。う。と。え。こ。う。ま。あ。あ。ん。こ
折。坐。來。と。我。郎。君。ふ。提。成。稟。と。恩。顧。の。不。做。生。を。ぞ。と。う。れ。と。荷。二。郎。不。勝。歎。ひ。肝。胆。と。吐。意。衷。と。盡。せ。密
談。小。東。園。か。久。く。睡。違。も。あ。ひ。そ。詰。質。辭。別。れ。遊。侯。城。内。還。り。余。程。長。總。憶。む。豪。志。挑。れ。脱
ぐ。も。あ。ず。れ。阿。容。ま。と。そ。の。意。憲。儘。と。假。寐。枕。と。並。折。肚。裏。緊。張。我。身。過。世。ひ。見。情。郎。ふ。死。別。れ。く。

あづらう あきらめ 一すば わんぎ クセ まみ まち うきて うゑどる
此の御子は荷郎也。這行者も死を絞れ。恩義の枷曳術も身と儘へゆ。薄情さよと涙口も悲憫
がちあんそくち みかつきひとうぬ あいど あいく みよきときをまき このあそうちげ あいく むらやく
ちふ豪袁の後も長總が獨宿る。臥房不潛び夢工の西宵夢ふ隨。這惡僧の秘戲も熟と。房菴も
とも あきらめろ うきやう いはの とも あきらめよ うきやう いはの とも あきらめよ うきやう いはの
ども医へかね、長總不覺ふ佳境ゆへと樂ありと云ふぞ。遂水魚の契りと結び。いや憎らざりけ。這
醜態不曲て今古の憶ふ難よ臨て身を汚されど死しを名の劣て節婦列女を及金とも。ト云う始と慎む
ひど ひど けふ參きあへこちゅうぢく云れど云ひ乍ま まふらうとある あいと よ うきこか ふせう
かの如尼姿まぐれ現長總が榮枯寵辱。是淫奔の始也。又淫奔の咎不終りん為不鮮く世の婦女子傍不祥小
事 あくち
遇す。各幸と榮まく。よりお始と慎み汝が生を汝が返す。福も禍も思へ。怕ゑ。問詰休題。恁而今茲も向暮
もえみりよ
させ。李三曾日不亨り。然豪袁の持承。慌く別と告。春京師霧漫る。又見參ふ。今が氣を既ふ飯茶赴く折。長
き きそをだめ。其處を
總共被衣初の衣の料せよかと。偷些の金を取と。飄然として出でゆる。然び豪袁と長總。人知ぬ快樂あ
まきまき トト うじそろ あづらす ひと こうき
ま。又泰勝と荷郎。悄々地玉交と結び。より。あも人知ぬ好處。糸やば只持承のミ木も就き。草も就ぬ。氣も腐
らして壁に向ひて吻く息。外火守。篝篠策も。やべり。什麼の事と先度の恥辱。雪う術はあそびや。左きの右をあそび程禁
ゆきあらり。せがへぎ。ともふとあまひ。ま
遊佐就盛が歳暮の佳義。伴當許。又來おけれ持承。対面と先書院史祝儀と巢。尔後閑室不招容

開卷驚奇俠客傳第四集卷之五終

○著作堂手集開卷驚奇俠客傳第四集畫者筆工刻刷目次
出像 二世 柳川重信

淨書

谷墨 金仙 橋八

雕鏤 第一卷

淺田伊守

雕鏤 第二卷

横櫻木田藤吉

雕鏤 第三卷

横櫻木田藤吉

雕鏤 第四卷

田中三八

第五卷

田中三八

開卷驚奇俠客傳第五集 每集五卷

第一集より第三集まで追々賣半置
第四集より度出販第五集陸續刊行

近世說美少年錄第四輯 每集五卷

第一輯より第三輯まで共に十五卷追々
第一輯より第四輯第五輯近日發行

水滸後畫傳第一集 每集五卷

二世柳川重信画 第一集近日刊行

水滸後畫傳第一集 每集五卷

柳川重信画 第一集近日刊行

水滸後畫傳第一集 每集五卷

柳川重信補画 第一集近日刊行

俠客少年二書衆議評判記第一集

一名岡観人書本丸原本のよどくまとて引ひる上信子

ゆき

序

俠客傳第二集出像ハ以齊英泉すよ興なよ

ゆき

序

俠客傳第三集出像ハ柳川重信すよ筆森森のよ興

ゆき

序

俠客傳第四集出像ハ歌川国貞すよ詠

ゆき

序

俠客傳第五集出像ハ柳川重信すよ筆森森のよ興

ゆき

序

俠客傳第六集出像ハ柳川重信すよ筆森森のよ興

ゆき

序

俠客傳第七集出像ハ柳川重信すよ筆森森のよ興

ゆき

序

俠客傳第八集出像ハ柳川重信すよ筆森森のよ興

ゆき

序

俠客傳第九集出像ハ柳川重信すよ筆森森のよ興

ゆき

序

俠客傳第十集出像ハ柳川重信すよ筆森森のよ興

ゆき

序

俠客傳第十一集出像ハ柳川重信すよ筆森森のよ興

ゆき

序

俠客傳第十二集出像ハ柳川重信すよ筆森森のよ興

ゆき

序

○曲亭翁新編國字碑史近刻畧目

書林羣玉堂刊行

○家傳神女湯譜病の妙某

第一集より第七集まで追々賣半置
第二集より第八集まで通俗本同様

○精制衣奇應先小包代金

第一集より第五ト

○熊胆黑九子

第一集より第五ト

○婦人用虫の妙某

第一集より第五ト

○製菴本家

第一集より第五ト

○元坂田町中坂下南側もの向

第一集より第五ト

○古今無類の久仙香

第一集より第五ト

○大坂心齋橋筋博勞町

第一集より第五ト

○河内屋茂兵衛板

第一集より第五ト

○吉林

第一集より第五ト

○天保六年乙未春正月吉日發行

江戸小傳馬町三町目

○丁子屋平兵衛

第一集より第五ト

○大坂心齋橋筋博勞町

第一集より第五ト

○河内屋茂兵衛板

第一集より第五ト

